

市内医史跡めぐりのご案

6月10日(日)・14:00~17:00

14:00・佐賀県公文書館集合

公文書館視察・史料閲覧

15:00~佐賀県立図書館調査

相良知安関係資料閲覧

16:00~八幡小路、医学校跡、永松東海・

松隈甫庵住居跡、好生館発祥の地など近

距離の医史跡めぐり

17:00医史跡めぐり終了・解散



※1) 資料代500円必要です。徴古館作成の『城下の医史跡めぐり』代金です。お持ちの方はそれを持参ください。これに若干、新史料を加えてお配りします。)

※2) 公文書館・県立図書館の対応しやすい時間、及び歩くには、夕方のほうが少しは涼しいだろうし、雨天の場合も考えてこのようなルートを考えました。

※3) 相良知安史料は、日曜日なので現物でなく、複製史料です。相良隆弘さんに説明いただけることで話をすすめています。

※4) 当日、18時00分から、佐賀大学医学部近くの『廬山』で会費制(5000円くらい)で、懇親会を持ちたいと思います。こちらもご参加ください。

医史跡めぐり、参加申し込み用紙=====

(参加されるかたは、人数把握のため、5月31日までにメールまたは FAX0952-28-8379へご連絡ください。不参加の場合は不要です)

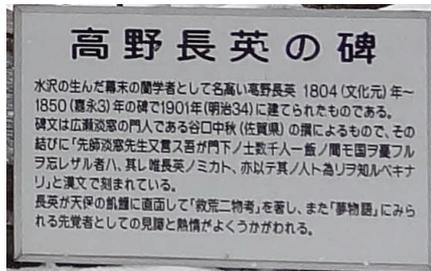
医史跡めぐり参加します。 氏名

連絡先 TEL

資料必要(要500円) 不要(どちらかに○)

懇親会 参加 不参加(どちらかに○)

高野長英と佐賀



伊東玄朴とシーボルトで同門の高野長英は、悲運の人であった。江戸にでてきて2度も人に騙され借金のかたに屈辱の中間奉公までして、ようやくシーボルトに学ぶことができた。シーボルト事件後、藩医の身分を捨て、学問に生きると決意し、江戸にもどって、西洋医学研究に励んでいたのもつかの間、蝨社の獄で捕らえられ、無実を訴え続けても容れられるところではなかった。やむなく彼は脱獄し、各地の門人や知友を尋ねて隠れ歩いた。やがて江戸で名前を変えて開業していたところを幕吏に襲撃されて最後を遂げた。

奥州市水沢区の高野長英記念館の前に、長英記念碑がある。明治34年(1901)に長英の名誉回復の贈位記念に建てられたもので、その碑文を書いたのが、広瀬淡窓門人で、肥前有田出身の漢学者谷口中秋藍田(1822~1902)であった。

藍田はこの碑文の最後に「先生(高野長英)風に聞く、先師淡窓先生(広瀬淡窓)又言す。吾が門下数千人、一飯之間、憂国を忘れざる者は、それ唯長英のみ」と記した。

長英が広瀬淡窓のもとを訪れたのは、文政11年(1828)のシーボルト事件の発覚直後、九州を各地を転々とし、九州を離れる直前に、1年ほど広瀬淡窓に入門したと、高野長運『高野長英伝』にある。

しかし、佐藤昌介氏の調査によれば、長英の旅中診療記録『客中案証』(未見、肥前はないか、要今後調査)では、肥後から筑後・筑前をへて、赤間関に向かっていて、豊後日田へは寄っていない。

また、文政11年5月8日に淡窓に入門した嶋道有を長英にあてる説もあるが、じつは長英は文政11年5月8日段階は、まだ長崎にいたことが判明している。従って、長英が淡窓に入門したという直接証拠はなにも残っていない。

しかし、藍田の碑文にあるように、悲運の人、憂国の人長英を讃える気運は、明治期には各地にみちて、長英を讃える淡窓の言葉として谷口藍田に伝えられ、また多くの人々の口に膾炙したものとみられる。

編集後記

本号は6月10日の市内医史跡めぐりの案内です。暑い場合や雨天の場合には、建物内での活動を主にするなど、臨機応変に対応したいと思います。9月9日は平戸商館への一日バスツアーです。ぜひ、今から予定をあげておいてください。(青木)